

令和４年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

令和４年９月１日(木)

智辯学園奈良カレッジ小学部

6年生が本年度4月に受験した全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。調査は、国語・算数・理科の3教科と児童質問紙の4種類の調査問題でした。本校では、児童の基礎学力を確認するのに良い機会と考え、毎年調査に参加しています。また、児童質問用紙で児童各人の生活の様子がわかるのも本調査のメリットであると考えています。

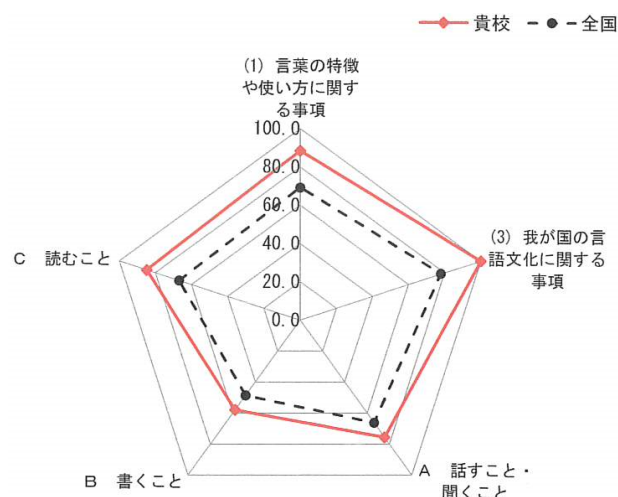
以下が本校6年生の結果です。

【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				貴校	全国
全体			14	82	65.8
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	88.4	69.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	100.0	78.0
	思考力, 判断 力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	75.8	66.3
		B 書くこと	2	58.1	48.6
		C 読むこと	4	84.7	66.8
評価の観点		知識・技能	6	90.3	70.7
		思考・判断・表現	8	75.8	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	83.5	71.9
		短答式	3	91.4	63.8
		記述式	3	68.8	51.4

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校6年生の国語の基礎学力はしっかり養われています。特に「我が国の言語文化に関する事項」が満点でしたし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」も9割近い好成績であったことから、「知識及び技能」については何ら問題がないと言えます。一方「書くこと」や記述式の問題形式については得点率が低いので、さらに高める必要がありますが、「書くこと」にも意欲的に取り組む児童が多いので、今後の伸長を期待しています。児童質問紙で、「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか」という質問にも「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は90.3%でした。

また、漢字書き取り問題の正答率は90%程度でよく頑張っていると思います。漢字書き取りはきちんと勉強しておけば満点を採ることが可能です。日頃の学習が良い結果を生んだといえるでしょう。今後も、同音異義語や和語の書き取りなどを意識的に学習しておくとともに力がつくでしょう。

また、国語で扱う教材（文章）の内容は非常に多岐にわたります。ですから、日頃からいろいろな分野に興味・関心を広げることが大切です。今回の調査で「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」と回答した児童は38.7%で昨年の65.9%から大幅にダウンしています。「どちらかという当てはまる」を入れても77.4%で昨年より10%以上下がっています。自らの知の世界を広げるために、いろいろな書物にチャレンジすることが大切です。

さらに、「新聞を読んでいますか」という質問に「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回読んでいる」と回答した児童は合計で29.0%で、こちらも昨年の34.1%や一昨年の約50%を下回る結果でした。新聞を購読している家庭も減少している昨今の状況を反映した結果ともいえます。とはいえ、現在の世界情勢や現代社会の課題など未来を志向していくうえで知っておきたい事柄や情報を積極的に求める姿勢はなくてはならないと思います。

自分とは違った価値観を持った者との協働も必要な時代になってきます。素直な心で書物に向かい合い、寛容な心で人の話を聴くということが今後求められる力であると考えます。

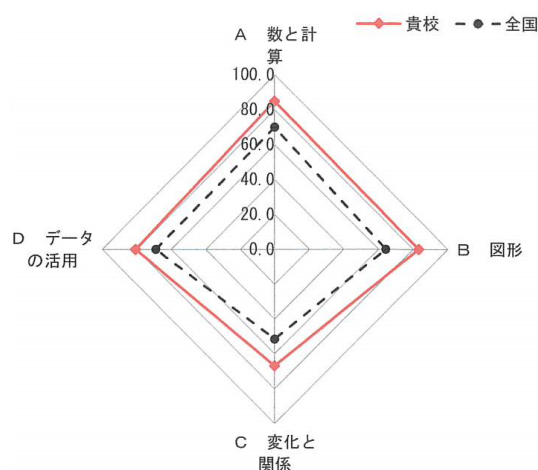
また、自分の考えや意見をじっくりと醸成し他者にわかりやすく説明できる表現力の向上も大切です。そういう力を養えるように今後とも丁寧に教科指導を続けていこうと考えています。

【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			貴校	全国
全体		16	78	63.3
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	84.9	69.9
	B 図形	4	83.1	64.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	66.9	51.5
	D データの活用	3	80.6	68.8
評価の観点	知識・技能	9	81.0	68.3
	思考・判断・表現	7	75.1	56.9
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	66.1	52.0
	短答式	6	91.9	76.6
	記述式	4	76.6	60.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校6年生は、どの分野もバランスよく、算数の基礎学力が養われていることが分かります。

児童質問紙の回答では、「算数の勉強は好きだ」93.5%と昨年の81.8%（「どちらかといえば、当てはまる」を含む：以下も同様です）を大きく上回っています。「算数の授業の内容はよく分かる」90.3%となっていて、本校児童が算数に対して高い意欲と関心を持っていることが分かります。

算数は、「論理的な考え方ができる脳」を鍛えるために学びます。つまり、物事の正しい順番を考えて推測したり説明したりできる能力を養うことが学びの目当てです。単に答えが合っていればよいという教科ではありません。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答した児童は74.2%、「算数の授業

で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかを考える」という児童は90.4%いました。算数の学習では、いろいろな解き方を試し、解答に至るまでの思考過程を楽しむことが大切です。また、難しい問題に挑戦して解けたときの達成感を味わうことで、世の中の諸問題に直面した時もあきらめずにいろいろな工夫を考えて、何とか解決しようとするチャレンジ精神を養えると思います。

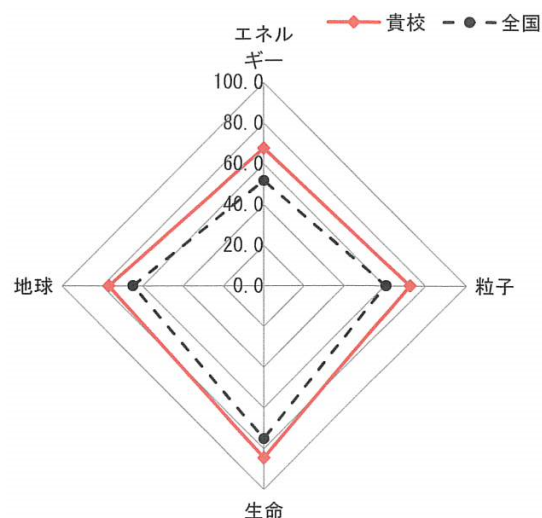
本校児童は、算数の基礎学力は十分に身につけているので、今後は、基礎学力のさらなる充実とそれを応用する力を養い、算数を学ぶ楽しさをさらに深く体感して欲しいと願っています。主体的に問題に取り組み、論理的思考の楽しさや論理的整合性の美しさを味わえるような人間に成長してくれることを期待して、各個人に寄り添いながら丁寧に教科指導を続けていこうと考えています。

【理科】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				貴校	全国
全体			17	75	63.4
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	67.7	51.7
		「粒子」を柱とする領域	5	72.3	60.5
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	84.5	75.1
		「地球」を柱とする領域	5	76.8	64.8
評価の観点		知識・技能	6	75.8	62.6
		思考・判断・表現	11	74.2	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	11	75.1	66.9
		短答式	3	87.1	66.4
		記述式	3	61.3	47.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



本校6年生は、どの分野もバランスよく、理科の基礎学力が養われていることが分かります。ただし、全国的な傾向でもあります、エネルギーに関する分野はもうひと頑張りする必要があります。

児童質問紙の回答では、「理科の勉強は好きだ」80.6%（「どちらかといえば、当てはまる」を含む：以下も同様です）「理科の勉強は大切だと思う」93.6%、「理科の授業の内容はよく分かる」90.3%となっており、理科に対する本校児童の高い関心と意欲がうかがえます。ただし、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思う」90.4%に対し、「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないかを考える」77.4%、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う」58.0%と現実の自分の生活や将来と直接的に結び付けて考える児童はやや少ないのか

など感じます。

理科の内容は、高度になればなるほど抽象的になるのですが、小学校においては、できるだけ観察や体験を重視して、観念的な内容でも、できるだけ体感できるように工夫しながら授業を展開してきました。そうすることで「実生活で役立つ理科」を実現できると考えるからです。今後ともそれは継続しつつ、理科の授業を通して、「問題解決の力をつける」「科学的に物事を見たり、判断したりすることができる力をつける」ことを念頭に置いて理科教育に当たりたいと考えています。

本校児童が社会に出てから、より正しい判断ができる人間に成長してくれること、また自然を愛し、科学技術の発展に貢献できる人物に成長し、今よりももっと快適でよりよい社会の実現に貢献してくれることを期待して丁寧に教科指導を続けていこうと考えています。

学習についての総括

質問事項		3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	25.8	22.6	22.6	16.1	12.9	0.0
	全国	11.6	13.9	34.1	25.6	10.4	4.2
質問事項		4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	1時間未満	全くしない
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	本校	22.6	25.8	6.5	19.4	22.6	3.2
	全国	8.4	5.7	12.6	29.8	31.3	12.2

本校児童はよく学習に励んでいると言えます。一方、時間をかけることも大切ですが、質も大切です。時間に見合う結果が収められているのかを、しっかり検証することが大切です。中学生になったら、より効率的な学習方法を自分たちなりに見つけることが必要です。自らができるようになったという達成感を感じられると学習も楽しくなります。児童各自が知的好奇心を働かせ、楽しみながら学習に励んでくれることを期待しています。

なお、これまで難関大学に合格するためには、いかに多くの知識をインプットできるかが重要課題でした。しかし、昨今の大学入試は、単に知識を身につけているだけでは突破できません。答えのない問題に対して、自分の持っている全知識を活用して考え、判断し、誠実かつ論理的に解答することが求められています。そういう意味では全人的な力を高めておかenないとよい結果を手に入れることはできないということです。

質問項目		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月一回以上	月1回未満
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	本校	77.4	12.9	3.2	3.2	3.2
	全国	26.9	31.5	24.9	11.5	5.1
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）	本校	38.7	38.7	12.9	6.5	3.2
	全国	14.5	29.6	32.1	16.4	7.3
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	本校	32.3	12.9	25.8	25.8	3.2
	全国	6.5	16.1	26.9	24.1	26.1
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	本校	6.5	19.4	19.4	38.7	16.1
	全国	7.0	14.9	23.5	28.7	25.7

質問項目		役に立つ	どちらかといえば役に立つ	あまり役に立たない	役に立たない	
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	本校	67.7	25.8	3.2	3.2	
	全国	65.5	28.9	3.6	1.7	
質問項目		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月一回以上	月1回未満
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか	本校	12.9	16.1	16.1	41.9	12.9
	全国	4.4	4.9	12.4	22.2	30.0

また、今回の調査では、2019年12月に文部科学省が打ち出した「GIGA スクール構想」に関わって、ICTについての質問も含まれていました。

本校においても3年前に「GIGA スクール構想」に基づき、ICTの環境整備を推進し、1人1台端末を実現して、今日まで、タブレットを積極的に活用してきました。今では、本校児童の学習にとって、タブレット端末はなくてはならないものになっていることが、上記の表からわかります。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ここ数年の間に、学習動画の配信やオンライン授業の実施などを含め、教育も多様化が求められるようになりました。今後も引き続き様々な教育の形が変化していくものと思われます。本校においては常に児童にとって何がよいのかを真剣に考えながら、教育のあるべき姿を追い求めて行こうと考えています。

【児童質問紙】

基本的生活習慣及び学校生活

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかと いえば 当てはまる	どちらかと いえば当て はまらない	当てはまら ない
朝食を毎日食べていますか	本校	83.9	12.9	0.0	3.2
	全国	84.8	9.5	4.1	1.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	本校	41.9	35.5	19.4	3.2
	全国	40.7	40.7	15.1	3.4
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	本校	48.4	48.4	0.0	3.2
	全国	56.8	33.5	7.9	1.7
困りごとや不安がある時に、先生や学校に いる大人にいつでも相談できますか	本校	45.2	32.3	16.1	6.5
	全国	35.5	32.6	20.2	11.6
学校に行くのは楽しいと思いますか	本校	77.4	19.4	0.0	3.2
	全国	51.8	33.6	9.8	4.7
自分と違う意見について考えるのは楽しい と思いますか	本校	38.7	35.5	22.6	3.2
	全国	30.6	43.1	19.8	6.5
友達と協力するのは楽しいと思いますか	本校	87.1	3.2	6.5	3.2
	全国	72.6	21.4	4.3	1.5

本校では、基本的生活習慣もしっかり確立し、楽しく登校してくれている児童がほとんどです。一部「当てはまらない」と回答した児童がいるのも事実であり、十分注意して支援していくつもりです。

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問については「当てはまらない(「どちらかと言え」を含む)」が22.6%存在し、全国より高い数値になっています。睡眠時間が一定せず、生活時間に乱れがあるせいか、随分疲れているなど感じる児童がいることも事実です。

学校での人間関係も多く児童が友だちや先生を信頼して安定した生活を送っていると思われます。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」は、25.8%が「当てはまらない」と回答していますが、自我の確立期に自分の考えに固執するのはありがちなことで、あまり心配する必要はないと思いますが、多様な価値観を互いが尊ぶ精神をしっかりと養っていかなくてはならないと思います。

規範意識

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかと いえば 当てはまる	どちらかと いえば当て はまらない	当てはまら ない
人が困っているときは、進んで助けていま すか	本校	45.2	45.2	6.5	3.2
	全国	44.9	44.0	9.3	1.7
いじめは、どんな理由があってもいけない ことだと思いますか	本校	87.1	9.7	0.0	3.2
	全国	83.9	12.9	2.2	0.9
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校	87.1	9.7	0.0	3.2
	全国	75.1	20.0	3.4	1.5

本校児童は規範意識もしっかりと身についています。人の役に立つ立派な人間になりたいという意識や「いじめ」を決して許さないという意識を持っていることも嬉しく思います。これからも仏教の教えを基に心優しい人物を育みたいと考えています。

本校では、今後も児童の見守りをしっかりと行い、丁寧な指導を心がけてまいりますので、ご家庭でのご指導もご協力くださいますようお願いいたします。

自尊意識・挑戦心及び社会に対する関心

質問事項		選択肢			
		当てはまる (している)	どちらかとい えば 当てはまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
自分には、よいところがあると思いますか	本校	41.9	29.0	12.9	16.1
	全国	39.5	39.8	13.4	7.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	本校	80.6	12.9	3.2	3.2
	全国	46.3	40.8	9.4	3.4
将来の夢や目標を持っていますか	本校	71.0	19.4	6.5	3.2
	全国	60.4	19.4	10.3	9.9
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	本校	32.3	54.8	6.5	6.5
	全国	38.8	48.4	11.2	1.6
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	本校	29.0	32.3	29.0	9.7
	全国	27.6	44.9	22.4	5.1

本校児童は90.4%の児童が将来に夢を抱き、「自分の決めたことは、やり遂げるようにする」という児童が多いのですが、一方で「先生が、自分のよいところを認めてくれている」と考える児童が93.5%もいるのに、「自分には、良いところがあると思いますか」の質問に対して29.0%の児童が「当てはまらない」と回答し、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦できますか」については38.7%の児童が「当てはまらない」と回答しており、物事をやり抜こうとする気持ちを持っているものの自信がないという結果になっています。本校児童は、自己に対する要求水準が高く、完璧を追い求める傾向があるため、失敗を恐れるのではないかと推測します。また周囲の大人の期待に応えなくてはという気持ちも強く、失敗して裏切りたくないという思いもあるのかもしれません。失敗や間違いは恥ずかしいことではありません。そこから学ぶことはたくさんあり、失敗や間違いを乗り越えたときに人は成長するのだと思います。児童たちが失敗を恐れずにいろいろなことに挑戦し、小さな失敗をたくさん積み重ねて大きな成果へとつないでくれることを期待しています。

本校は、児童の夢の実現のため全力で児童一人ひとりを支えられる学校でありたいと考えています。児童たちが主体的かつ意欲的に、いきいきと活動できる学校を目指して、教育に精励する所存です。どうか保護者の皆様には今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。